



20

関東大地震で崩れた箱根湯本の玉簾の滝

箱根湯本の湯坂山の山すその玉簾の滝はその名の通り玉すだれを掛けたように水を流れ落とし、湯本温泉の名所の一つになっています。この滝に至る須雲川ぞいの道を滝通りと呼び、古くからの旅館などが軒をならべています。滝通り周辺で温泉の試掘が始められたのは関東大地震（大正12年）以後のことです。

自然のままのように見えるこの滝が、実は明治の中頃に日本庭園に配置するかのように入手がくわえられ水が流し落とされたものだというので、明治26年発行の箱根温泉誌（学齢館）に次のように書かれています。

玉簾の滝 もとわずかに溪水のほとぼしり落ちたる崖にすぎざりしに、明治二十二年子安峻氏の始めて開きしところなり。たくみに崖を削り水の分配を広くしたるより、高さ十九間、幅十四間の大なる滝となれり。滝の下には数千坪の平地あり。木石を植え亭樹を構え、人の休息に便にす。夏時は此に遊び滝にかかりて涼を取る者多し。滝の広かつ高きに似ず、その水量は実にわずかなれば童幼婦女といへども之にかかりて更に危険のおそれなし。このところをまた滝の前の遊園といふ。のぞみによりて麦酒茶菓等を供すれども、宿泊をばせしめずといふ。この園に入る者は五銭の入場料を要す。

— 箱根瀧之前遊園全圖 —

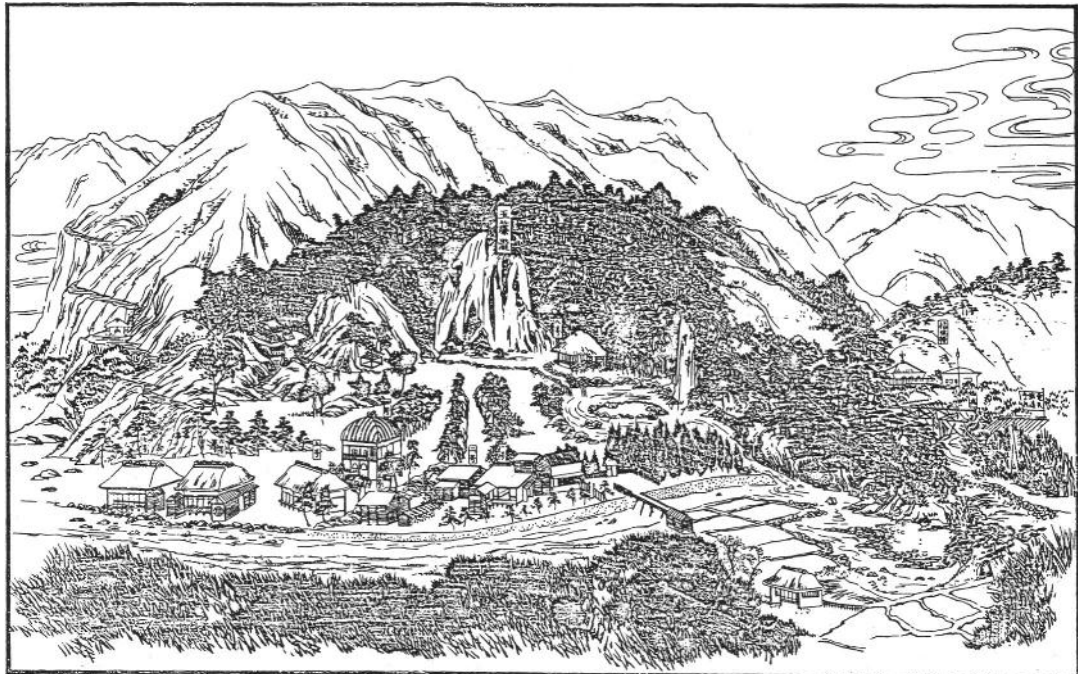


図1 明治時代の滝の前遊園

玉簾の滝を配したこの遊園は温泉地につくられた観光施設として、当時は画期的なものでした。大正12年の関東大地震が滝の前遊園を大きくかえました。滝は崩れ、いまでは遊園あとが大きな旅館になりました。

玉簾の滝はその後掘り出され、清らかな水を落として往時の流れをとどめています。この間の事情が次のように案内板に書かれています。

(前略) 明治の半ばからは、須雲川に吊橋をかけ池には船を浮かべ、飛姻閣といふ回廊付きの六角堂に数々の仏像を安置し、「滝の前遊園地」として一般に公開されました。その二流の滝が山崩れで埋まってしまったのは大正十二年の関東大震災からです。昭和になって玉だれの滝だけは掘りだされて、その名の通り清冽玉すだれのようにこの湯坂山の中腹から湧き流れて居ります。滝の上の玉簾神社の祭神は九頭竜大神です。無病息災、商売繁昌の神様として知られております。(後略)

芦ノ湖でおなじみの九頭竜が玉簾の滝の祭神として祀られていることも大変興味深い事です。

(平野富雄)



図2 玉簾の滝付近



写真1 玉簾の滝



写真2 案内板